



(2) 弘法大師像（平成 17 年建立）の台座の「建立旨趣」

建立旨趣 弘法大師信仰による、四国八十八カ所巡礼は江戸時代に盛んになり、享保年間より千葉県内にも四国八十八カ所を模して札所を設け数多の大師講が発足した。ここ、白井に於いても明治三十七年四月の弘法大師御縁日である二十一日に、当時、日露戦争の戦勝祈願を背景に発願され、白井村小廻大師が白井大師組合として創立、当地区も白井・下長殿大師組合として発足、参加したものである。その後、毎歳十月には各地区の札所を数多の善男善女が巡拝し、結願区にては盛大な結願式が執行された。しかしながら時代の変遷とともに参加地区の減少を見るに至り、廃願を余儀なくされ、平成十七年十月神々廻地区の結願式を最後に虚しくも大師組合を解散する。ここに、白井大師巡礼の再興を願い、弘法大師修行の御石像を建立するものである。

平成十七年十月吉日 来迎寺住職 鈴木良和 白井・下長殿大師組合

同様の主旨ものが、中・薬師堂に中大師講解散記念「弘法大師之像」（平成17年12月吉日）があった。（2022.11現地調査）